

2025 年度 東京科学大学医歯学系オープンキャンパス

個別相談 ピアサポーター対象アンケート 報告書

東京科学大学 医歯学系ピアサポーター

実施期間: 2025 年 7 月 31 日～8 月 1 日

実施場所:東京科学大学 湯島キャンパス M&D タワー26 階 ファカルティラウンジ

東京科学大学 湯島キャンパス M&D タワー2 階 ホワイエ

有効回答数: 14 件

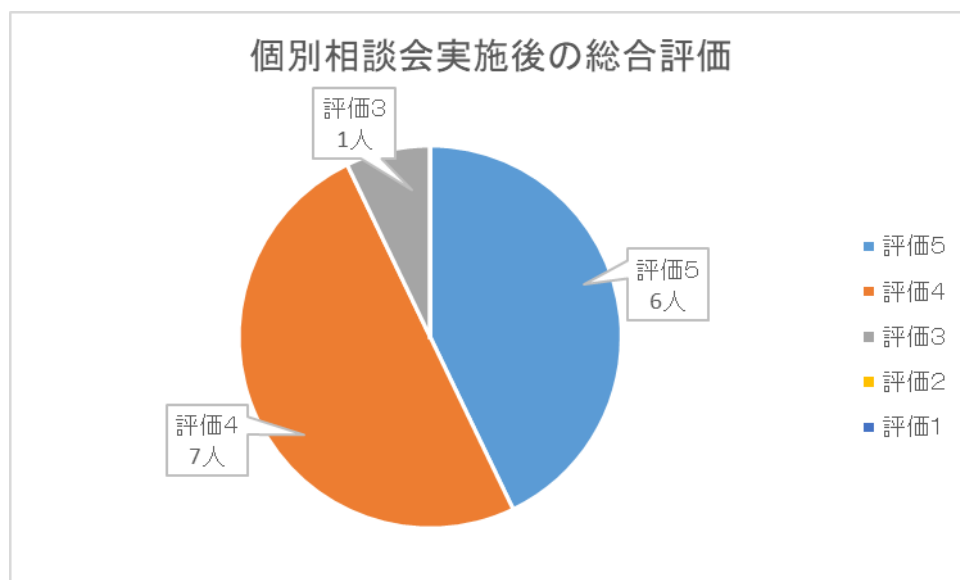
1. はじめに

本報告書は、医歯学系オープンキャンパスにおけるピアサポーター個別相談会実施後に対応したピアサポーターを対象に実施したアンケート結果をまとめたものです。改善点や継続すべき点を挙げ、今後の活動改善に資することを目的とします。

2. 定量的評価：満足度

個別相談会実施後の総合評価を 5 段階で評価してもらったところ、平均評価は 4.36 と非常に高い評価となりました。

「大変満足 (5)」と「満足 (4)」を合わせると、回答者の 約 93% が満足しているという結果です。具体的な内訳は以下のグラフの通りです。



3. 定性的評価：フリーコメント

ピアサポーターから集まった貴重なご意見を、「良かった点」「改善点」「次回に向けて」

の3つのカテゴリーに分けてまとめました。

3-1.良かった点

結果を見ると多くのピアサポーターが、受験生や保護者との交流にやりがいを感じ、事前の準備が功を奏したと感じているようです。特に、今年初めて作成した「Science Tokyo まるわかり book」は、非常に好評だったようです。

受験生・保護者からのポジティブな反応:

- ・「今日来てよかったです！」という受験生の声が励みになった。
- ・受験生の悩みを聞き、満足のいく回答ができた時に喜びを感じた。
- ・多くの来場者があり、活気があった。

準備と運営のスムーズさ:

- ・役割分担が明確で、情報共有もできていた。
- ・「まるわかり book」が好評で、待ち時間にも読んでもらえた。
- ・法被の統一感が良かった。
- ・ピアサポーター同士で協力し、臨機応変に対応できた。

医学科ピアサポーターの貢献:

- ・昨年度より医学科のピアサポーターが増え、医学科志望の学生への対応が充実した。

3-2.改善点

一方で、医学科志望の相談者の多さに起因する課題が複数挙げられました。また、時間管理や情報共有の面でも改善の余地があるようです。

医学科の対応に関する課題:

- ・医学科の相談者が多く、待ち時間が長くなった。
- ・医学科ピアサポーターの負担が大きかった。(休憩が取れないなど)
- ・臨床実習や卒業後に関する質問に、低学年のピアサポーターでは答えにくい場面があった。

時間管理と運営:

- ・15分の時間制限を守るのが難しく、相談時間にばらつきが出た。
- ・お昼時の対応で、順番が分かりにくくなる場面があった。

情報共有と連携:

- ・他の企画との連携(宣伝時間など)をより密にすると効果的だったかもしれない。

- ・相談所の場所移動の際に、連絡がうまく取れないことがあった。

3-3.次回に向けて

改善点を踏まえ、来年度に向けた具体的な提案が数多く寄せられました。医学科ピアサポーターの増員や、より効果的な情報提供が主なテーマとなっています。

医学科の対応強化:

- ・医学科のピアサポーターを増員する、あるいは協力者を募る。
- ・高学年（5,6年生）のピアサポーターに参加を呼びかける。

情報提供の工夫:

- ・各席にどの学科のピアサポーターがいるか、分かりやすく表示する。
- ・よくある質問への回答を事前に準備・共有しておく。
- ・ポスターやパンフレットに対応可能な時間帯を明記する。

運営方法の改善:

- ・待ち時間を可視化するため、各学科のブース前にリアルタイムの待ち時間を明示する。
- ・待ち時間特に長い医学科を他学科の待機列を分離・案内し、全体の流れをスムーズにする。
- ・医学科ピアサポーターを増員し、相談の回転率を向上させる。
- ・受験対策と大学生活など、テーマごとに担当を分ける。

4.まとめ

今年のオープンキャンパス個別相談会は、多くの受験生に満足してもらえる、非常に有意義なものとなったようです。これは、ピアサポーター一人ひとりの熱心な準備と、当日の丁寧な対応の賜物です。特に、「まるわかり book」の作成は、素晴らしい試みだったと言えるでしょう。

来年度に向けては、医学科志望者への対応が最大の課題となりそうです。ピアサポーターの増員や、高学年の協力、そしてより効率的な運営方法を検討することで、さらに満足度の高い相談会を目指せると考えます。